

### ③まとめる・振り返る

主体的・協働的な学び

#### 知識や考えをつなぎ、学び続ける態度を生み出す まとめ・振り返り

○学びを振り返り、知識をつなぎ学びの理解を深めるとともに、協働的に学ぶよさや自分の成長を実感し、次の学びへの意欲を高めるようにする。

子ども同士の学び

最初は〇〇と思っていたけど、友達の意見を聞いて、□□が変わった。



友だちの考え（説明）はよく分かった。わたしもまねしたい！

～のように考えてみると〇〇がわかった。

以前学習した〇〇と同じ考え方で問題を解くことができた。



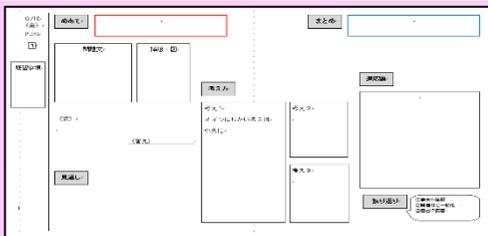
今日の学習は、次の〇〇（日常生活）の時にも使えそうだ。

😊 3つの視点で振り返りを行う。（自己内対話）

- ①事実…授業内容について、わかったことやできるようになったこと等を振り返ります。  
「この学習で、〇〇するできるようになりました」  
「〇〇は分かったけど、□□がよく分かりませんでした」  
「今日の勉強で、〇〇が使えるようになりました」
- ②関連・一般化…既習事項とつなげて、考え方を比較させて振り返ります。  
また、今日の学びを他の学びへ活用させたり、焦点化させたりします。  
「〇〇と似ていて、～であることが分かりました」  
「〇〇と違って、～であると分かりました」「～は、□□でも使えそうです」
- ③変容…本時や本単元の始めと比べて、学び方の変化を振り返ります。  
「今まで〇〇することができなかったけど、できるようになりました」  
「〇〇さんの説明を聞いて、自分も～しようと思いました」  
「～を学習して、考えることが面白くなりました」

😊 単元計画に振り返りを位置づけ、子供と共有化して実施する。

- ◆ めあてとまとめの整合。
- ◆ 板書を活用して振り返る。
- ◆ 児童のノートで児童の学びを見取る。  
・ノートコーナーをつくる。  
・ノートへの赤ペン指導。  
(班ごとにノートを集めてもよい。)
- ◆ チャイムとともに授業終了。



※手引きに示した内容は一例であり、学習内容に応じて、活用しましょう。



## 主体的・対話的で深い学びをつくるための手引

福山市立深津小学校

### ①つかむ（課題把握・見通し）

主体的・協働的な学び

#### 子供たちの問いを引き出し、つなぐ課題把握・見通し

○学習内容の提示等を工夫し、児童が自ら「問い」を持ち、経験や既習事項と関連付けながら学習課題を設定しようとする態度を育成する。  
○学習課題を解決するための考え方や方法を見出そうとする態度を育成する。

子ども同士の学び

なぜ？  
どうなっているのかな？



調べてみたい！

前に使ったあの考えを使えば解けそうだ！



前の学習と〇〇がちがうぞ。よくわからないなあ？

考えてみたい！

友だちの考えも聞いてみたいな。

😊 ゴールを子供と共有化し、考え方や方法の見通しを立てる。  
(パフォーマンス課題を設定した音楽科単元計画：(例)『とんと音頭』のお囃子をつくろう)

😊 子供のつぶやきをつなぎ、焦点化して学習課題を立てる。

- ・生活経験や既習事項の想起、関連・比較
- ☆ **問題等を見たら、気付きをどんどん話することができるように！**

😊 具体物の提示を工夫し、気付きを引き出す。

- ・写真や図表、楽譜、楽器、デジタル資料等
- ・既習事項を掲示する。(活用させたい用語、内容)
- ☆ **見せすぎ、与えすぎに注意！**

#### 【問題との出合い】

- ①生活経験と比べて「例えば～」「〇〇とは違う」「～で知ってる。見たことある」
- ②既習事項と比べて「前の時間と□□が違う」「〇〇の勉強と似てる」「～の考えが使えるぞうだ」
- ③見通しを考えて「考え方」「前、学習した考えを使うと解けそう」
- (方 法) 図・具体物の活用 調べる 試す等

手立て

学習者同士の活動

- ◆ 5分休憩は学習道具と心の準備
- ・5分休憩には、静かにトイレ、水分補給等をすませる。
- ・学習道具の準備、ノートへの日付・ページ記入
- ・本時の学習の予習をする。
- ◆ チャイムとともに号令
- ・日直の起立と同時に、はじめの挨拶ができるよう姿勢を整える。



## ②ふかめる（追究・解決）

主体的・協働的な学びに向ける

### 自分の思いや考えをもつ自力解決

○児童が自分から対象に関わり（調べる 試す ものや考え方を活用する等）自分の考えを持つようにする。

### 思いや考えを広げ、ふかめる ペア・グループ・全体での対話

○考えを説明することで、思考の整理・新たな気付きを得ようとする態度を育てる。  
○子供たちが働かせた「見方・考え方」に即して、話し合いを焦点化し、まとめにつなげるようにする。

めざす子供の姿

長さを実際に測って調べよう。

どうすればできるんだろう？

時計の音にはウッドブロックの音がぴったりだよ。試してみよう。

以前学習した考え方を使ってみよう。

図を使って式の意味を考えよう。

わたしは、こう考えました。理由は…

どうしてこう考えたの？

わたしは違う考えで、～。

～が分からないから、もう一度説明して。

ぼくも同じで、こう考えました。理由は…

〇〇さんの考えと■■くんの考えは～が似ています。

つまり、～のように考えると、解決できます。

以前の学習でも～の考えを使っていました。

〇〇さんの考えは、こういうことですか・・・

手立て

#### 😊 机間指導のポイント

- ① 全員がとりかかっているかを大まかに見て回る。
- ② できたところまでを評価したり、出来ていない子への手立てを講じたりする。〈励まし 考えの良さを評価 教科書等の活用や模範例等を紹介する等〉
- ③ どの考え方を提示するかを決め、発表の準備をさせる。（ホワイトボード、黒板、ICTの利用）

#### 😊 考えが持てない児童への支援

- ① 教科書のヒントとなる場面を提示したり、既習を振り返らせたりする。
- ② 複数いる場合は、少人数で指導する場を設定する。
- ③ できた児童からアドバイスをもらえるようにする。
- ④ 具体物の操作等を行い、考えることのできるコーナーを設定する。

#### 😊 共有させるための問いかけをする。

- [再生]「〇〇さんの説明をもう一度言えますか。」  
[予想]「〇〇さん説明の続きが言えますか。」  
[発見]「〇〇さんの考えの良いところはどこですか。」  
[言い換え]「〇〇さんの考えを別の言い方でも言えますか。」

#### 😊 児童が思考錯誤する場面を大切に。 (失敗を見直し、再度挑戦！)

- ・誤答を提示し、ゆさぶる。（つまずきを取り上げる際は、児童の心情に配慮して）
- ・再度挑戦する場をもつ。（すぐ手を貸さない。）

#### 😊 児童同士教え合いの場を設ける。

- ・ペア・グループで疑問を出しやすい雰囲気づくりをする。



#### 😊 児童の考えに対し問い返しをする。

- [事実]「それは、どういうことですか。」  
[方法]「どのようにして、考えたのですか。」  
[理由]「どうしてそうなるのですか。」

#### 〈対話活動でつなぐ〉

- 1.5 往復以上の対話をめざして
- ・友達との考えをつなぐ（共通点・相違点、まとめ 等）
  - ・式、図、言葉をつなぐ（式や考えの読み取り 等）
  - ・既習事項とつなぐ（いつ・どの単元どんな考え方 等）
  - ・生活経験とつなぐ（見たこと、したこと 等）

学習をその活動

- ◆ 家庭学習での予習・復習
  - ・ドリルやプリントでの復習
  - ・教科書の考えを解釈する予習
  - ・資料やインターネットで調べる。

- ◆ ステップタイム
  - ・基礎・基本の定着
  - ・NIE：新聞に親しみ読み解く力を付ける。

- ◆ 子供たちの考えを基に話し合いをコーディネートし、ねらいに迫るために、学習指導案に「対話のポイント」を記入する。

#### 〈対話のポイント〉

- ① 形態
- ② 話し合う内容
- ③ 対話で工夫すること



- ◆ 対話活動において児童と共有すること

- ① 疑問を自由につぶやくこと
- ② 納得するまで質問すること・聞くこと  
「こういうことですか～」と自分の言葉で言い換えるとよい。
- ③ 友達が納得するまで説明すること
  - ・友達に続けて説明させる。（様々な考えや表現の仕方が納得を生むため、児童の発言を教師の言葉で言い換えない。）
  - ・「同じで」「違って」「例えば」「つまり」等の接続詞を活用し友だちの考えに関連して話す。

#### ④ 説明する際に活用するもの

- ・具体物、音楽(音)、図、既習事項の掲示、ICTを示しながら説明する。
- ・動作を交えて、書きながら、操作しながら説明する。

